

食の新潟国際賞財団 平成28年新春講演会及び賀詞交歓会のご案内



※写真は前回のものです。

当財団恒例の新春講演会と賀詞交歓会を平成28年2月15日(月)にホテルイタリア軒で開催いたします。今回の講演会は来年4月23日(土)から24日(日)の2日間、新潟市に於いて開催されます2016年サミット関係閣僚会合「G7新潟農業大臣会合」の開催を記念し、「世界の食糧と農業」をメインテーマに開催いたします。

講演会には特別ゲストとして「国際連合世界食糧計画(WFP)」の日本事務所所長のスティーブ・アンダーソン氏と、世界の食糧と農業について国内の第一人者である柴田明夫氏(株式会社資源・食糧問題研究所 代表取締役)と石井勇人(一般社団法人 共同通信社 編集委員兼論説委員)氏をお迎えして多面的に最新の情報も交えて今後の日本の進むべき方向もご提言いただきます。

○ 賀詞交歓会・懇親会(御案内)

財団恒例の賀詞交歓会・懇親会を開催いたします。

毎年、賀詞交歓会には財団の御寄附者・会員の皆様をはじめ財団の事業にご協力をいただいている行政、在外公館、経済団体、企業など多くの皆様からも御出席いただいております。

今年も新春講演会の講師の皆様も交えて開催いたしますので是非多くの皆様の御出席をお待ちしております。



期 日 平成28年 2月15日(月) 17:30～(新春講演会終了後)
会 場 ホテル イタリア軒 12F 「ゴンドリーナ」
会 費 5,000円(当日会場受付で納入下さい)

※写真は前回のものです。

平成28年新春講演会 開催概要

公益財団法人 食の新潟国際賞財団 平成28年新春講演会
G7新潟農業大臣会合 開催記念
「世界の食糧需給と日本の農業の現状と課題」
—日本が進むべき方向—



1. 開催日時 平成28年2月15日(月) 14:00～17:20
2. 会場 ホテル イタリア軒 サンマルコ
3. 目的 G7新潟農業大臣会合の開催を盛り上げ・記念するため世界の農業や食糧の需給、日本農業の現状と課題などの最新の動向を知るとともに、今後の日本が進むべき方向を考える。
4. 主催 公益財団法人 食の新潟国際賞財団
5. 後援 (予定) 新潟商工会議所、新潟経済同友会、亀田商工会議所、新潟日报社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞社新潟支局、日本経済新聞社新潟支局、共同通信社新潟支局、時事通信社新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21
6. 内容

(1)特別報告

「世界の飢餓に取り組む革新的な方法 —国連WFPの事例を中心に—」
スティーブン・アンダーソン 氏(国際連合世界食糧計画 日本事務所 代表)

(2)講演

①「世界の食糧需給と農業の現状と課題」

柴田 明夫 氏(株式会社 資源・食糧問題研究所 代表取締役)

②「貿易の自由化と日本の農業 —TPPと農業改革を中心に—」

石井 勇人 氏

(一般社団法人共同通信社 編集委員兼論説委員・農政ジャーナリストの会 会長)



平成28年新春講演会 講師のご紹介



スティーブン・アンダーソン 氏

国際連合世界食糧計画(WFP) 日本事務所 代表

ケニア・ナイロビ生まれ。米国人。

幼少期のほとんどを東アフリカで過ごし、ジョージタウン大学(米)とカイロ・アメリカン大学(エジプト)で学ぶ。

1989年 スーダン・ハルツームでの国連ボランティア 救援オフィサーとして国連WFPに入職後、同事務所にてアシスタント・プロジェクト・オフィサーに就任

1995年 エチオピア事務所 プログラム・オフィサー(開発調整官)

2000年 ローマ本部支援活動局プログラム部門 チーフ・プログラム・オフィサー

2005-2008年 ローマ本部 上級事務局次長特別補佐官、支援活動局副局長

2008年-2013年 フィリピン事務所代表

2013年2月- 現職



柴田 明夫 氏

株式会社 資源・食糧問題研究所 代表取締役

1951年生まれ(栃木県)

1976年 3月 東京大学農学部(農業経済学科)卒業

1976年 4月 丸紅株式会社入社。鉄鋼第一本部配属

2001年 4月 丸紅経済研究所 主席研究員

2006年 4月 丸紅経済研究所 所長

2011年10月 株式会社 資源・食糧問題研究所 代表

【主な政府委員】

農林水産省「食料・農業・農村政策審議会」食品産業部会、農業農村振興整備部会、国際食料問題研究会、資源経済委員会等委員

【主な著書】

『食料争奪』日本経済新聞出版社、『水戦争』角川SSコミュニケーションズ、

『食糧危機にどう備えるか』日本経済新聞出版社、『食糧クライシス』エフビー出版等



石井 勇人 氏

一般社団法人 共同通信社 編集委員兼論説委員(編集委員室次長)

農政ジャーナリストの会 会長

昭和56年4月 社団法人 共同通信社 入社

和歌山支局、ワシントン支局など経て

平成13年5月 同社 経済部次長

平成17年7月 同社 編集委員兼論説委員

平成25年9月 同社 編集委員室次長

平成21年2月 農林漁業保険審査会委員(現職)

平成23年9月 農林水産政策研究所機関評価委員(現職)

平成26年 (独) 農業者年金基金契約監視委員会委員(現職)



平成27年6月 「農政ジャーナリストの会」会長(現職)

【主な著書】

『農業超大国アメリカの戦略—TPPで問われる「食料安保」—』新潮社、

『進化する日本の食 農・漁業から食卓まで』共同通信社編等

「2015ミラノ万博」及び「食科学大学」の視察・訪問

1. 時期	2015年10月1日～6日(6日間)
2. 訪問地	イタリア ローマ市、ミラノ市、ブラ市
3. 目的	<p>「食料と農業」をテーマにした「2015年ミラノ国際博覧会」の視察とともに日本館に新潟市が出展参加する機会に会場内で「食の新潟国際賞」のPR活動を行い、財団の会員企業の製品を来場者に頒布し、新潟製品の紹介をするため。</p> <p>併せてスローフード運動の誕生の地であり、スローフードを基本理念に設立された「食科学大学」を訪問、設立趣旨・運営・ネットワークなどを聞く。</p>
4. 参加者	篠田昭市長、池田弘財団理事長、吉田康財団副理事長、鈴木伸作財団常務理事、町田智(新潟県信用農業協同組合常務理事)石原靖之(一正蒲鉾(株)商品開発部長)他
5. 主な内容	<p>(1)2015ミラノ万博視察(ミラノ市)</p> <p>ミラノ万博は国際博覧会条約に基づく5年ごとに開催される大規模な国際博覧会で「地球に食料を、生命にエネルギーを」を主要テーマに148ヶ国・地域が出展し、平成25年5月1日～10月31日までの184日間イタリアのミラノ市で開催され、新潟市ディーは10月4日～5日の2日間「湊まち・にいがたからの食文化創造」をテーマに、篠田昭新潟市長や池田弘食の新潟国際賞財団理事長も出席して賑やかに開幕しました。</p> <p>会場では新潟を代表する産品のお米(おにぎり)、清酒の試飲、枝豆の試食や米菓等の新潟のお菓子が来場者に配布し、2日間とも常に終日長蛇の列でにぎわい食文化都市新潟を強くアピールすることができました。</p> <p>会場内には「第4回食の新潟国際賞の推薦募集」の看板とパンフレットを設置し食の新潟国際賞のPRも行いました。</p> <p>※お菓子ご提供企業: 亀田製菓(株)様、(株)ブルボン様、(株)栗山米菓様</p>  <p>(2)食科学大学訪問(ブラ市)</p> <p>ミラノ万博訪問の機会に農業や食品生産の分野で世界的に注目されているイタリアのブラ市郊外にあるスローフードの拠点ともいわれ、食科学を専門とする世界ではじめての大学である「食科学大学」を訪問しました。</p> <p>スローフード運動は1986年ファストフードに対抗してだけでなく「食を大切にする」という広域的な活動として①おいしく②きれい(環境・健康に良い)③正しい(生産者への対する正しい対価)を理念にこの地からのカルロ・ペトリーニ氏が提唱し世界に広まりました。</p> <p>食科学大学はこのカルロ氏の提案により2003年に創設され、新しい農業、生物多様性の研究の維持、ガストロミーと農業科学のつながりを深める為の人材育成や国際研究など世界各国の学生が学んでいます。</p>  <p>(3)スーパーマーケット視察</p> <p>ローマ及びミラノ市内の大手スーパーマーケットの食品売り場の見学を中心に価格や販売展示方法、商品のサンプル購入など市場調査を行いました。</p>



古泉 肇 氏(前理事長、特別顧問・ファウンダー)が

秋の叙勲で旭日中綬章を授章しました



平成27年の秋の叙勲で食の新潟国際賞財団の前理事長の古泉 肇氏(全国米菓工業組合理事長)が旭日中綬章を受章しました。

褒章の伝達式は11月11日に農林水産省において執り行われ、その後天皇陛下への拝謁が皇居にて行われました。

古泉氏は1965年亀田製菓(株)に入社以来米菓業界に入り、41歳で同社社長に就任し、現在同社の名誉顧問を務めています。

全国米菓工業組合では長年にわたり理事長の要職を務め、何回かの厳しい経済変化の中で組合員の結束と各企業の経営の安定化に尽力され、業界の発展に貢献されました。

食の新潟国際賞財団に於きましては、平成16年に「食の新潟国際賞」を提唱され、平成21年の財団の設立に尽力され、初代理事長として財団の今日の礎と築かれ第3回にわたる国際賞の表彰事業を行いました。

現在も特別顧問・ファウンダーとして財団の支援を続けていただいています。

古泉氏からは「今回思いもかけない叙勲をいただき大変感激しております。これまで多くの方々からのご支援とご協力いただき感謝を申し上げます。今回の叙勲は食の新潟国際賞の創設に関わり、表彰事業を続けていたことも含まれていると考えております。今後も食の新潟国際賞に対して応援を続けてゆきたいです」とお話がありました。

今回の受章は当財団にとっても大変名誉であり大変喜ばしく、古泉氏の今後の益々のご発展とご健康をお祈り申し上げます。



※農水省での叙勲伝達式の様子

スペシャルサンクス 〈敬称略・順不同〉

特別会員

株式会社ブルボン	亀田郷土地改良区	株式会社新宣
株式会社第四銀行	亀田製菓株式会社	学校法人新潟総合学園
新潟県農業協同組合中央会	一正蒲鉾株式会社	佐藤食品工業株式会社
株式会社エイケイ	三菱商事株式会社新潟支店	NST
株式会社電通東日本新潟支社	株式会社栗山米菓	株式会社新潟クボタ
亀田商工会議所	にいがた22の会	新潟日报社
株式会社日本食糧新聞社		

正会員

新潟市農業協同組合	新潟県信用組合	株式会社第一印刷所
株式会社本間組	石本酒造株式会社	株式会社ミカサ
神山物産株式会社	株式会社山忠	丸七商事株式会社
ハセガワ化成工業株式会社	大東産業株式会社	藤屋段ボール株式会社
株式会社タケショー	株式会社新潟博報堂	BSN新潟放送
新潟陸運株式会社	医療法人愛仁会亀田第一病院	株式会社新潟食品運輸
山崎醸造株式会社	月島食品工業株式会社	ホテル日航新潟
株式会社フジテレビジョン	日本製粉株式会社関東支店	日本甜菜製糖株式会社
株式会社鳥梅	株式会社山由製作所	新潟工科大学産学交流会
株式会社キタック	北越工業株式会社	丸榮製粉株式会社
新潟万代島総合企画株式会社	鍋林株式会社 ヘルシーフーズ事業部	株式会社鈴木コーヒー
TeNYテレビ新潟	株式会社栗田工務店	三和薬品株式会社
松田産業株式会社	セツツカートン株式会社新潟工場	株式会社藤井商店
日本精機株式会社	東邦産業株式会社	麒麟山酒造株式会社
株式会社加島屋	株式会社日本フードリンク	株式会社アド・メディック
株式会社新潟テレビ21		

個人会員

藤島 安之	大越 斎	和田 充彦
河内 直史	佐野 正人	

食の新潟応援団(賛助会)募集中!

食を通じて飢餓や貧困などに苦しむ世界の現状に目を向けると、日本にいる私たちにも食の危機が及びつつあり、世界の人々の命が一つにつながっていることがわかります。

食と私たちの命を守る本財団の事業に賛同し応援して下さる皆様を募集しています。

詳しくはホームページをご覧ください。アドレス <http://www.niigata-award.jp/jp/join/>